

紀の国わかやま文化祭2021関連特別展

「和歌山と皇室－宮内庁三の丸尚蔵館名品展－」

後期展示（令和4年1月4日(火)～1月23日(日)）の見どころ

さいぎょうものがたり えまき
西行物語絵巻 卷二 尾形光琳筆

江戸時代(18世紀)



和歌山ゆかりの歌人、西行の生涯を描いた絵巻。本作は宮中^{きゅうちゆう}所蔵の作品を江戸時代初期の絵師・俵屋宗達^{たわらやそうたつ}が模写し、それを尾形光琳が写したもの。展示中の巻二には、出家した西行が八上^{やがみ}王子(上富田町)で桜を眺める場面や、那智の滝(那智勝浦町)へ行く場面などが描かれています。

をくり (おぐりはんがん えまき)
をくり (小栗判官絵巻) 卷十三

いわさまたべ えひつ
岩佐又兵衛筆 江戸時代(17世紀)

小栗判官と照手姫^{てるてひめ}の波乱にとんだ恋愛物語を極彩色で描いた全十五巻の絵巻。巻十三から修験者^{しゅげんじゃ}たちが熊野の山中を通り、餓鬼^{がき}の姿となった小栗を人間に戻すために、本宮・湯の峰^{ゆのみね}に向う場面。湯の峰の温泉に入浴した小栗が次第に回復し、人間の姿へと戻り、熊野権現^{くまのこんげん}に出会うまでの場面を展示しています。



ざるおきもの たかむらこうんさく
猿置物 高村光雲作 大正12年(1923)



対象を写実的にとらえた木彫^{もくちゆう}で明治期の彫刻界を牽引した高村光雲による作品。能の演目「翁(式三番)^{おきな しきさんばん}」の三番叟^{さんぼそう}(三番三)の鈴ノ段は五穀豊穡^{ごこくほうじょう}を寿ぐ舞で、これを猿回しの猿に真似させた芸は正月の祝福芸として親しまれたといひます。猿の一瞬^{ひょうひょう}の飄々とした動きや表情を巧みに表現しています。

